

# 年末から1月の寒害・雪害対策

## I 寒害対策

### 1 さつまいも

#### (1) 事前対策

- ア 苗床及び超早掘のハウス，トンネル栽培は密閉し，保温に努める。
- イ 貯蔵庫は地上，半地下式とも換気口をふさぐ。
- ウ 電熱温床のない育苗ハウスや超早掘り栽培（12月～1月植付）では，二重被覆や補助加温器具等を利用し，保温に努める。
- エ 冬季晴天時の夜間には放射冷却によって，外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため，上記対策を徹底する。

#### (2) 事後対策

- ア ハウス内が高湿・多湿とならないよう，適切に換気を行う。

### 2 野菜

#### (1) 事前対策

- ア 防風網や防風垣は，冷気が滞留しないように裾を空けておく。
- イ 豆類は事前に，寒冷紗，不織布等のベタ掛け資材で被覆できるものは被覆する。
- ウ ハウスの隙間対策を徹底し，気密性や保温効果を高める。
- エ 無加温ハウスでは，二重被覆や補助加温器具等を利用し，保温に努める。
- オ 冬季晴天時の夜間には放射冷却によって，外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため，上記対策を徹底する。

#### (2) 事後対策

- ア ハウス内が高湿・多湿とならないよう，適切に換気を行う。
- イ 寒害により，樹勢が弱っている場合は，草勢の回復や病害予防のため，液肥や殺菌剤を散布する。
- ウ 寒害によりマメ類で，心が止まった場合は，主枝の更新を行う。また，<sup>さや</sup>莢が被害を受けた場合は，すみやかに摘<sup>てつきょう</sup>莢し，草勢の回復を図る。

### 3 花き

#### (1) 事前対策

- ア 防風網や防風垣は，冷気が滞留しないように裾を空けておく。
- イ 事前に，寒冷紗，不織布等のベタ掛け資材で被覆できるものは被覆する。
- ウ ハウスの隙間対策を徹底し，気密性や保温効果を高める。
- エ 無加温ハウスでは，二重被覆や補助加温器具等を利用し，保温に努める。
- オ 冬季晴天時の夜間には放射冷却によって，外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため，上記対策を徹底する。

#### (2) 事後対策

- ア 寒害により，樹勢が弱っている場合は，草勢の回復や病害予防のため液肥や殺菌剤を散布する。

## 4 果 樹

### (1) 事前対策

- ア 防風網や防風垣は、冷気が滞留しないように裾を空けておく。
- イ 収穫可能な果実は、寒波の襲来前に収穫する。
- ウ 収穫ができない果樹は、寒冷紗等で樹全体を覆う。
- エ カンキツの幼木では、樹冠を不織布やコモで覆う。
- オ ビワでは、寒害軽減のためにアルミ袋を使用したり、樹高が低い園では寒冷紗等で被覆を行う。
- カ ハウスの隙間対策を徹底し、気密性や保温効果を高める。
- キ 無加温ハウスでは、二重被覆や補助加温器具等を利用し、保温に努める。
- ク 冬季晴天時の夜間には放射冷却によって、外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため、上記対策を徹底する。

### (2) 事後対策

- ア カンキツ等で落葉の多い樹では、枝の枯れ込みが予想されるので、樹勢を見ながら間引き主体の軽いせん定を行う。
- イ 寒害を受けた果実は直ちに収穫し、十分な予措期間をおいて、被害がないかを確認して、健全な果実だけを出荷する。
- ウ 樹勢が弱っている樹では、冬期のマシン油乳剤散布は控える。
- エ ビワで寒害を受けた場合、利用できる孫花等があれば、寒害の恐れがなくなっから摘蕾・摘果を行う。

## 5 茶

### (1) 事前対策

#### (冬芽の凍害対策)

- ア 冬芽の耐凍温度情報を把握し、この温度より低下する地域では防霜対策を実施する。
- イ 事前に防霜ファンやスプリンクラーの整備・点検を確実に行う。
- ウ 設定温度は、耐凍温度にあわせたものとし、過度な高温に設定しない。
- エ 防霜ファンの故障やスプリンクラーの目づまり等がないか、夜間に必ず巡回・点検を行う。
- オ 耐凍性の高まる休眠中であっても、外気温が耐凍温度を下回ると被害を受けるため、注意を要する。

#### (幼木園の裂傷型凍害)

- カ 急激な温度低下で発生する「幹割れ」を防止するため、株元に厚く敷き草を敷いている場合は、茶株と敷き草が接触しない程度に空間を設ける。

### (2) 事後対策

#### (冬芽の凍害対策)

- ア スプリンクラーの散水停止は、茶株面温度がプラスに転じた時点とする。
- イ 凍害を受けた茶園では、基本的に整枝は行わずに芽の回復を待つ。

#### (幼木園の裂傷型凍害)

- ウ 発生した場合は、生存率を高めるために土寄せする。

## 6 飼料作物

イタリアンライグラスは、厳寒期の刈り取りを一時控えるか高刈りする。

## Ⅱ 雪害対策

### 1 共通事項

- (1) 降雪時の農地・農業用施設の見回りは、次の点に留意しつつ、作業者の安全確保を最優先に、対策の徹底を図る。
- ア 見回りをする際には一人では行かない。
  - イ 滑りにくい靴を履く。
  - ウ 道路・ほ場周辺で、隣接する用水路，落差等がある場所には近づかない。
  - エ 倒壊の恐れのあるハウスや畜舎などの施設には近づかない。
  - オ ハウス，畜舎等の雪下ろしを行う際は，ヘルメットをかぶり，滑りにくい履物を履くなどし，複数人で作業を行う。
  - カ 悪天候時には，作業は行わない。

### 2 ハウス施設

積雪が予想される場合は，ハウスの倒壊を防ぐため下記の事項を実施する。

#### (1) 事前対策

- ア ハウスバンドやビニルは，たるみ等がないように，しっかりと張る。
- イ 屋根被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検する。特に，防風ネットや外部遮光資材等は必ず撤去する。  
また，連棟ハウスの場合は，谷部に雪が積もるので，補強を徹底する。
- ウ 加温ハウスでは，暖房機の燃油残量を確認し，十分に確保する。また，暖房機や電源，配線等についても正常に作動するか確認する。また，降雪時は内部被覆（二重カーテン）を開放するなど可能な範囲で，ビニル直下の室温を高めることで，屋根雪の滑落を促す。
- エ 無加温ハウスでは，ビニルの破損箇所や隙間をふさぎ，ハウスを補強するとともに補助加温を行うなどして，積雪による倒壊を防ぐ。
- オ 耐用年数が経過し老朽化したハウスにおいては，特に補強を徹底する。
- カ 降雪状況等を考慮し，場合によっては被覆資材を切断除去することで施設の倒壊を防ぐ。
- キ 雪解け水が滞水しないようハウス周辺の側溝・排水溝を整備しておく。

#### (2) 事後対策

- ア 積雪した場合は，速やかに雪おろしを行い，ビニルがたるむのを防ぐ。その際は，重みのバランスを考慮しながら雪を下ろしていく。
- イ ハウス施設の損傷やビニルの破損等がある場合は，すみやかに補修する。